

令和4年度
第61回長野県保育研究大会
 11月1日～11月30日 オンデマンド配信



大会宣言



児童憲章朗読



撮影の様子



大会のオープニングは飯田市実行委員の方々が行いました。
かざこし子どもの森公園で撮影



発行所
 (一社) 長野県保育連盟
 長野市大字中御所字岡田98-1
 長野保健福祉事務所庁舎内(2階)
 TEL026(228)4415
 FAX026(228)9443
 e-mail:kenhoren@khaki.plala.or.jp
 https://horen-nagano.jp/
 題字 海野会長

大・会・宣・言

第61回長野県保育研究大会は、飯田市での開催に向け準備を進めてきました。新型コロナウィルス感染症の収束が見通せない中で、多数の保育士が一堂に会しての開催は困難と判断し、大会全体をオンデマンドにより開催することにしました。

本日より11月末まで、インターネットを活用し「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」の主題のもと、県内保育関係者が保育を取り巻く様々な課題解決に向けて研究します。

平成27年以降、「子ども・子育て支援新制度の導入」、「保育所保育指針等の改定」、「幼児教育・保育の無償化」などの新しい保育制度が導入される中、危機管理、食物アレルギーや配慮を要する子どもへの対応など保育の果たす役割は、多岐にわたっています。

更に、新型コロナウィルス感染症が社会にもたらす影響がどのようなものになるかわからない予測困難であり、対応が長期化していることから、長野県全体の保育士数は増加傾向ではあるものの、保育現場においては、保育士不足が解消していない等、負担や困惑はますます増大しています。

一方で、コロナ禍を契機にICTの活用やWEB会議の普及が進み情報化社会の波は保育界にも到来し、確実に浸透しており、今後の保育のあり方や働きやすい職場環境づくり、保護者・地域との関わり方の見直し等につながるきっかけにもなっています。

また、人口減少・少子化に伴い、園児数は急激に減少してきていることから、保育所は、地域の子育て全体を支援するセーフティネットとして、多機能化が求められてきているところです。

こうした中、子どもたちには、予測困難な時代にあっても、前向きに変化を受け止め、よりよい豊かな未来の創り手になっていくことが期待されています。そして、その基盤となる新しい保育実践が必須となっています。

私たち保育関係者は、こうした責務と役割を果たし、これまで大切に培ってきた保育の営みと新たな保育実践を広く社会と共有し、未来に向かって無限に伸びる可能性を秘めた、すべての子どもたちの健やかな育ちを支え、地域に豊かな子育て文化を根付かせていくため、創意と工夫に満ちた積極的な取り組みを続けていくことが強く期待されています。

この大会で行われる研究により、多くの先駆的で効果的な実践の学びを習得し、子どもたちの安全と健やかな成長を支え、心豊かな次世代を築いていくという使命を達成するため引き続き専門性の向上と自己研鑽に努めていくことを誓い、宣言します。

令和四年十一月一日

第六十一回長野県保育研究大会

第六十二回長野県保育研究大会を終えて

実行委員長 飯田市 鈴木 康子



今年こそは…と、参集型を目指し、全体会、分科会ともに一日開催で会場をお借りし着々と準備を進めていた夏…新型コロナウイルス感染症第7波到来。泣く泣く参集型を断念し、第六十一回長野県保育研究大会飯田大会は、すべてをオンラインでやることとした。顔を合わせて共に学び合いたいという願いがなわず残念ではあったが、十一月の一月間、保育に関わる多くの職員が研究レポート発表や大豆生田先生の講演を視聴し、個々、または園内の職員間で学び合うことが出来たと思う。そして、少しでも飯田市の魅力と大会実行に向けてド素人ではあるが、実行委員の想いを伝えられたのではないかな。

新型コロナウイルス感染症の猛威はまだまだ衰えず収束の兆しは一向に見えない。しかし、この逆境の中だからこそ私たち保育士が元気で、笑顔を絶やさず、地域の子育てを支え心豊かな次世代の子どもたちを育てていくという信念をもって研鑽を続けていかなければならない。次期開催地は長野県のほぼ中心に位置する塩尻市である。ぜひ参集型でできるようコロナの収束に期待したい。



第六十二回大会塩尻市様へ
バトンタッチ
よろしくお祈りします！

最後になりましたが長野県保育連盟会長海野様はじめ関係者の皆様方には大変お世話になりました。ありがとうございました。

保育功労者表彰

- 全国保育協議会会長表彰**
社会福祉法人双緑会 岸野保育園 保育アドバイザー 鷹野 正子 様
- (一社)長野県保育連盟会長表彰**
南佐久郡佐久穂町立 八千穂保育園 元園長 小池 洋子 様
社会福祉法人シオン会 長野大橋保育園 理事長 浦野 和子 様



全国保育協議会会長表彰 及び 長野県保育連盟会長表彰授与式
R4.11.30 ホテル信濃路

- | | | | | |
|---------|-------------------|-------------------|-------------------|----------|
| 海野 保連会長 | 加藤 保連副会長
浦野和子様 | 峰川 保連副会長
鷹野正子様 | 平川 保連副会長
小池洋子様 | 高橋 保連副会長 |
|---------|-------------------|-------------------|-------------------|----------|

保育事業の推進に寄与し、功績が顕著であることから表彰されました。おめでとうございます。

研究発表 飯田市レポート委員会

「飯田市の文化としての人形劇と子どもたちの関わり」



公立認定こども園16園、私立17園が共に学ぶ飯田市。「人形劇のまち」飯田の保育を伝えるため、各保育園がどんな人形劇との関わりがあるのか、調査するところから研究が始まった。

それぞれの関わりの中でも、長年、人形劇フェスタの会場となっている園や、子ども達が人形を作りウエルカム人形展へ作品を展示している園があり、どんな実践を発表していきたいのか、段々に絞っていった。

子ども達の活動に合わせて、長年続いてきた保育士の人形劇研修についても紹介させて頂くことにした。

直近の人形劇フェスタでの実践をぜひ紹介したかったのだが、コロナ禍でフェスタは数年中止となり、以前の実践を掘り起こしていくこととなった。

人形劇フェスタや人形劇のまちとしての飯田市の歴史も、この機会に学び直そうと、公立私立合同の場において「いいだ人形劇センター」理事長の高松和子氏の講演が開催された。高松先生からは、貴重な実践の様子も写真を交えてお聴きすることができた。



人形劇フェスタの写真を掲載するにあたっては、フェスタの事務局である飯田文化会館の方にも協力して頂いた。参集型の保育大会であれば、歴代のたくさんのフェスタの参加ワッペン、ポスター等、フェスタの歴史を会場へ展示し、皆さんに見て頂こうと思っていた。実際に子ども達が作った人形、保育士の研修で作ったいくつもの人形など、多くの作品も展示したかったのだが、残念ながらコロナの影響により配信型の大会となった。

そのような状況下でも出来ることをしようと、冊子や配信動画でも、人形劇の実際の写真を多く載せ、雰囲気が伝わるよう心がけた。

研究を通して、これまでに、たくさん子ども達・保育士達が様々な人形を手作りし、実演し、鑑賞し、試行錯誤し、心ふるわせる体験や友達とのドラマが数々あったことを改めて感じた。人形だからこそできる表現や工夫、成長、面白く楽しい体験が生まれる人形劇。飯田の文化としての人形劇との関わりを、これからも大切にしていきたいと感じた。

コロナ禍ではまだ出来ないこともあるが、子ども達が人形劇に触れる体験を工夫して作っていきたい。

機会があれば、多くの方に人形劇フェスタへ参加し飯田市の熱気や子ども達の生き生きした姿を感じ

て頂けたらと思う。



記念講演

「子どものワクワク大人のワクワク」

みなさん、保育は楽しいですか？

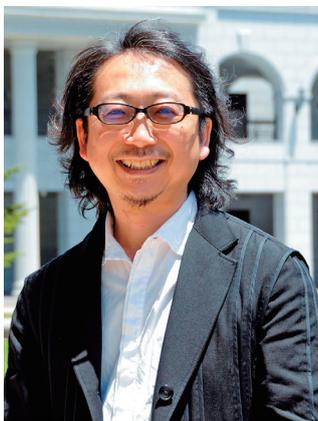
玉川大学教育学部教授 大豆生田 啓友 先生

乳幼児教育、保育の大変革期にあり、これからは全ての園で質の高い教育、保育が求められる時代である。そのためには子ども主体の質の高い教育・保育を保障できる人材の育成が求められている。

◆子どもを受容的・肯定的に理解する事。子ども自身の興味関心、姿から明日の計画を考え、環境構成をしてみる。遊びのブームが生まれ夢中で（主体的に）遊びこんでいるか。

◆一人一人の良さを大切にすること。その子の自己肯定感が育まれるのみならず、育ち合いが生まれ良好なクラス集団が作られる。また、友だちを知り、互いの良さを認め合える機会として「サークルタイム」がある。子ども同士の対話の場を設けてみたところ、話す・聞く・互いを理解する力・様々な事柄への興味関心等が育ち、保育者はその振り返りを次の活動に生かすことで、子どもの声を聴き、実現する保育、育ち合いが生まれる保育になっていった。

◆乳児でも丁寧に声掛けし尊重する事が重要。絵本は保育者、子ども、保護者をつなぎ効用は大きい。共主体の保育。決めつけず一人一人の子どもの姿で環境を用意する。



◆保育者がドキュメンテーションを作成し、それを振り返ることで、今まで見えなかった様々な事が見えてくる。子どもの視線や声に耳を傾けると、保育者も子ども目線でのワクワク感や知的な好奇心と向き合い、共に探求したり、活動を楽しむようになった。また、保育活動を展示することで子どもと共有できる他、保護者との共有も容易になる。

◆子どもが楽しむ姿や、ワクワク感が増すことで、保護者も関心を寄せるようになる。子どもの姿を保護者と共有し、保育者自身も子どもと共にワクワクしている姿から、保護者は保育に信頼を寄せる。遊びが学びだと伝わり、良い相互作用になっていく。

◆子ども主体の遊びを重視し、日々の保育の振り返りをして職員同士が語り合う事のできる風土の形成が保育の質にかかわっていく。

第六十一回長野県保育研究大会の講評

長野県子ども若者局こども・家庭課

保育専門推進員兼私学振興専門員

川上 真実

第六十一回長野県保育研究大会

は、飯田市からオンデマンドによる配信（11月1日～11月30日）で開催されました。「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」の主題のもと、子どもの人権を尊重し、人として尊ばれること、生活と発達を保障する明確な指針として、すべての子どもの幸福を図るための児童憲章の言葉の重みと深さを、正しく認識することを再確認しました。保育者は次世代を担う子どもの権利を尊重し、常に子どもの立場に立ち、子どもの置かれている状況において、長期的視点から良い環境の提供、心身ともに健やかに育成するための最大限の支援に尽力することが重要です。コロナ禍の配信という方法でありましたが、かざこしこどもの森公園の豊かな自然の中で読まれた児童憲章はとても新鮮で、私たちの心の奥に深く染み入るものであり、基本に立ち帰る機会となりました。また直接会場に足を運び、職員と対話を交え、リアルに共感し合う学びの場も、保育に携わる

者として必要であるとも感じました。

記念講演は、玉川大学教育学部教授、大豆生田啓友先生に御講演いただきました。テーマの「子どものワクワク 大人のワクワク」～みなさん、保育は楽しいですか？～は、日常生活や保育に、胸が高鳴り心が躍る豊かな時間があるかを問われているようでした。絵本を読んでもらうこと、一緒に遊ぶこと、人と関わることで広がる子どもの世界、大人との関わりや思い出は子どもたちが將來、どこで、どのような形で思い出されるか未知ではありますが、幼き頃の記憶は思い起こせなくても幸せの記憶が住んでいる。（潜在意識の中に記憶として記録されている）といった内容に共感しました。幼少期は大人の優しいまなざしのある温かな愛情の下、子どもの心が躍る豊かな保育を目指し、日々研鑽していくことを学びました。

結びになりますが、本大会の企画運営等御支援、御協力を賜りました飯田市各担当者、実行委員会の皆様には心から深く感謝申し上げます。





第65回全国保育研究大会が、10月17日～28日「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」の主題のもと研究討議が行われました。

オープニングアトラクション YouTuber たつたい&めんごい子どもたちによる山形県の地域文化紹介 厚生労働省 子ども家庭局 保育課長 本後健氏による「保育をめぐる国の動向」行政説明

全国保育協議会 会長 奥村尚三氏による「保育をめぐる動向と全国保育協議会の取り組み」基調説明

東京大学 遠藤利彦氏による「コロナ禍における保育で大切にしたいことーアタッチメントと非認知的な心の発達ー」基調講演が、ライブ・オンデマンドにて配信されました。

新型コロナウイルス感染症に伴う乳幼児の保育・生育環境の変化が懸念されるなか、「目の前の子どもとその家族のために、今私たちができること」に今後も力を注いでいきたいと感じました。

第5分科会 「子どものより良い育ちに向けた関係機関とのネットワーク」に意見発表者として参加しました。

関西福祉科学大学 小口将典氏からの助言及び講義内容については以下の通りです。

◆画一した子育て支援から、各地域の状況・ニーズに即した子育て支援への移行が始まっている中で、ニーズに基づいた計画等の事業を重層的に実施していく必要が求められる。

◆働き方の変化・家族の変化等により、保育所における支援の在り方も多様に順応していかなければならない現状がある。これらの事から、保育者の価値・技術・知識のチャンネルを現代の子育て世代に合わせていく必要がある。そのうえで、様々な課題に対して、支援者は利用者(相談者)の多重問題に対するニーズを見える化し、問題の核を明確にしていくことで主訴を整理していくことが重要である。

◆エンパワメント(利用者の可能性や潜在能力を引き出していく)の必要がある。伴走型の支援を行うこと、顔が見える連携(各機関へ)つながること、つないだ後も利用者と「つながり続ける」ことが求められている。

研究発表① 宮城県 社会福祉法人丸森町社会福祉協議会 幼保連携型認定こども園丸森ひまわりこども園【笑顔と歓声にあふれ、いきいきと遊ぶ子どもも健康な心と体を家庭とともに育てる「ちゃれんじカード」の試み】

研究発表② 長野県 社会福祉法人松美会 時又保育園【途切れなく家族を支援するために〜ともに育ちあう保育所をめざして〜】

研究発表③ 山口県 防府市立宮市保育所【子どものより良い育ちに向けた関係機関とのネットワーク〜地域資源の活用、新たな発掘〜】

コロナ禍においても保育・教育に関わるものの「学びを止めない」そんな思いを保育研究大会において感じることができました。

当法人においても、令和3年第60回長野県保育研究大会↓令和4年第62回関東ブロック保育研究大会↓同年第65回全国保育研究大会に研究発表園として参加するチャンスをしただけで法人全体が多くの経験と学びを深めることができ職員一人ひとりの意識が変化しました。

また、長野県保育研究大会後も継続して研究を行ってきたため、関東ブロック大会では、研究Ⅲとして研究Ⅰ・Ⅱを実践することで構築され

た関係機関とのネットワークの現状について専門機関へアンケート調査を行いその結果をまとめ発表することができました。

グループワークにおいて、議論されることで、研究の成果について振り返ることができたとともに今後の課題も明確になりました。

また、それぞれの大会において助言者の先生方よりご指導をいただけたことは、法人内の学びをより深めていくきっかけとなりました。

今後も学びの歩を止めず、子どもとその家族について語り合い・議論し合い・途切れなくつながり合いながら、ともに育ちあう保育所をめざしていけるよう研鑽を積んでいきたいと思えます。

最後に、このような貴重な経験をさせて頂き、また、ご尽力くださいました関係各位の皆様にご心より感謝申し上げます。



何でかな、一緒にいるとあったかいね

関東ブロック保育研究大会に参加して

塩尻市北小野保育園 園長 武居 理恵

本年度の関東ブロック研究大会は、昨年度に続きオンラインにて行われました。全体会、分科会の研究発表はオンデマンド配信、その後の分科会討議はライブ配信で行われました。

【基調講演】

「乳幼児期におけるアタッチメントの重要性と保育士の役割」

東京大学大学院教育学研究科教授 遠藤 利彦 氏

子どもの心理的側面の発達への影響を中心に、ごく当たり前のアタッチメントがいかに大切な役割を果たしているのか、また、保育所は子どもにとっていつも変わらない「安全な避難所」であると同時に、「安心の基地」であるべきことについて、多くのことを学ぶことができました。

【塩尻市高出保育園レポート】

様々な専門機関の懸け橋として
一人ひとりの育ちを「元気づこ応援チーム」で支えよう

塩尻市は、第二分科会「配慮を必要とする子どもや家庭への支援に向

けて」のテーマでした。この分科会では、当市を含め三市が発表しました。

本テーマでは、インクルーシブ保育の視点から、障害の有無にかかわらず、配慮を要する子どもを含めたすべての子どもを、分け隔てなく一緒に保育し、すべての子どもや保護者に対する保育・子育て支援関係者としていかに寄り添い、関わり、支援を行うべきかについて研究を深めました。

助言者

東京都立大学 名誉教授

浜谷 直人 氏

横浜市の発表は、様々な保護者支援・対応について。山梨市の発表は、食事面で支援を必要とする子どもや保護者への働きかけについて。当市は、配慮を必要とする子どもの関係機関との連携について、発表しました。

横浜市の例ですが、保護者との信頼関係を作るためにいくらか試行錯誤を重ねても、子どもが保育園を嫌がり泣いているようでは、支援は進み

ません。子どもたちが「明日は今日遊んだ続きをやるうー!」と「〇〇さんと遊ぼう」とワクワクする活動のための環境整備ができていますか? また大好きな仲間がいるかが重要であると伺いました。それぞれの持ち味を発揮しながら楽しく遊ぶことが大切であるとも伺いました。保護者としては、我が子が保育園を嫌がらず元気に登園する姿を見れば、気持ちも軽くなり、ぼろっと心配なことを話し、そこから支援につながるかもしれません。

次に、山梨市の偏食についてですが、急速に偏食が治るわけではありません。気づいたら食べていたということが重要だと伺いました。生命が危うい偏食は別ですが、そうでなければ先程と同じように、「保育園が楽しい」「友達がいって楽しい」「明日も保育園へ行きたい」という気持ちが大切で、楽しく過ごす中で自然と食が豊かになったということが重要なので、あまり偏食・食行動に絞らなくてもよいのではないかと、という話でした。

塩尻市の他機関との連携についての発表ですが、保育園は医療機関とは違うということについて詳しく伺いました。そもそも保育の構造は

荒れて当然であり、それは持つている障害ゆえに荒れるものではありません。多くの子は何もせず頭で解消できますが、できない子は退屈であると、持っているものを投げたり体を動かしたりしてしまします。専門機関は退屈にしない環境である、と強調していました。レポート発表でも取り上げましたが、対象児の持ち味を周囲の友達に伝え、互いの違いを認め合える仲間関係を作ることが大切であるとの話になりました。

また、「持ち味」と「個性」の違いについてお聞きしました。それぞれの持ち味は一人ひとり違うため、下手、うまいではなく、多様性に富んでいます。また、持ち味は褒める対象でなく共感することがとても大切になってきます。競争ではなく、互いを尊重し合えることが重要であると伺いました。私たちは、一人ひとりを大切に保育し、子どもの尊厳を大切にしていかなければ、保育士の子どもへの関わり方を見て、いじめへと発展してしまう恐れが生じます。

助言者の先生のお話を聞いて、「保育」「保育士の役割・責任」について、改めて考える機会となりました。

教育・保育施設長専門講座を受講して

長野市子供の園保育園 園長 山下隆子

季節も冬を迎え今年度も行事を終える度、子ども達一人ひとりの成長と共に保育者の成長も見られ、細やかではありますが共に育つ事の喜びを感じる毎日です。

今回、施設長専門講座を受講する機会を与えられ、現状の課題をしっかりと捉え、見落としがち身近な保育の基礎の部分を再確認し、保育園の今後をどうあるべきかに気付く事ができました。

研修は二日間ズームを使用したオンラインによるライブ配信でした。プログラム(2)「新たな保育サービスの開発」は六講義を受講し、五つの講義の中より一つを選びレポート作成・提出しました。

プログラム(3)「保育事業の戦略」では二日間で五講義を受講し、その中から一つを選びレポートを提出。更にこの講義を受講する前に事前学習があり、動画視聴し課題が出されレポートを提出しました。

かなりの時間と頭を使い、何年かぶりに勉強したと感ずる日々であり

ました。

その中でプログラム(3)「保育事業の戦略」の中から、「業務改善と福祉サービス第三者評価」について、大阪総合保育大学 大方美香教授の講義内容に深く感銘を受けたのでご紹介いたします。

サブタイトルとして、「第三者評価を生かし保育の見直しを行う事の重要性」では、この中の「保育の見直し」について改めて考えてみました。

私達の仕事はこの見直しが出来るかが大きな要になっていいると思えます。日々の保育を振り返り一人ひとりが、もう一度自分の保育はこれで良いのか？と考えられる様な余裕を持つ事の大切さ。そして保育が慣れ合いになつていないか。そのせいで子ども達の姿を見逃しているのではないか。

大方先生のお話しの中に、「保育の見直し」で出た改善点は必ず普段の保育の中に答えがあると言われた意味を考えて、自園の日常を重ねて考えさせられました。保育にとって何が大切か。その「何が」とは園で大切に

している理念に答えが有るのではない

か。「理念」を職員間でしっかり共有することが、先ず保育の見直しに繋がるのではないかと思います。第三者評価も監査のように捉えがちではあるが、普段みんなが思っていることを確認する「きっかけ」に置き換えると、その場で得た情報も共有しやすいのではないか。第三者評価と保育の繋がりは、子ども達が保育園で何を身につけているか。子ども達の発達を保護者と情報共有をし合っているかが重要な所だと思えます。社会の状況が変わり子ども達の置かれている環境も一人ひとり違う中、子ども達にしっかり寄り添い、この仕事に責任を持って向き合う事の大切さに気付かされました。

また、自己評価をし、子ども達の理解が出来たか、子ども達の成長に気付けたか、一日の振り返りをし、今日の見直しが明日の保育への一歩として繋がって行けるようになれば自ずと保育の質も高まるのではないか。得たものの中に、保育にとっての「何が大切か」に結びつくものが必ず有ると実感しました。保育とは一人で出来るものではない為、子どもの姿に保育者が多方面から目を向けてあげ、職員と一緒に考え合える共有の場を作る事が大切だと思えます。「保育」を考える中で

お互いが意識をして考えないと「理解」に繋がらないし、理解が出来ないと子どもの成長に気付けないと感ずります。グループに分かれて各園の園長先生と話し合う機会がありました。保育園とは、人が育ち、育てる場所ではなくては職員も生き生きと働けないと改めて実感しました。上に立つ者として、保育士の気持ちに寄り添いながら、園として「心」を育てて行けたらと願います。「学びの場」として気付けたことをチャンスと受け止めながら、今回の研修の場で学べたことを生かして、子ども達も保護者の方々、職員も保育園が更に「安心して過ごせる場所」になるように、努力していけたらと思えます。ありがとうございました。



園の紹介

のびのびとたっぷり遊び込める保育 『スマイルチャレンジデー』

軽井沢町立軽井沢西保育園 園長 神山 晶子

軽井沢町は、人口二万一千人余りで、観光地としても有名な町です。町内には四つの保育園があり、西保育園は、町の西側に位置し、広い園庭と園舎の東側に探検の森があり、四季を感じる事ができます。また、隣には小学校、児童館があり、大変恵まれた環境の中にあります。

探検の森は、西保育園の特色であり、子ども達は、山のほりや草花、虫探し、木の実、落ち葉、ままごと遊びなど、探検の森に行くと一緒に以上夢中になり遊んでいます。

この自然豊かな西保育園の環境を生かして、のびのびとたっぷり遊び込める保育をしたいという願いのもと、全クラスが合同で遊びの環境を考えていこうと『スマイルチャレンジデー』を毎週水曜日に取り入れています。

探検の森に、サル、クマ、パンダ、トラ、ふくろうなど、森にいる動物を置いてみました。子ども達は、動物がいることで、関心を持ち、「ここにちは、遊びに来たよ」と挨拶したり、木と木の間に布を広げてテントをつくと、その中でままごとをしたり、隠れ家になり友達と触れ合いながら楽しむ姿が見られました。

た。子ども達の遊びから、ままごとセツトや電話を置くようにしたこと遊びも広がっていききました。

ロープを見つけた三歳児は、大きな木を見つけて船づくり。レジャーシートを敷くと、くつろぐ子や図鑑を見る子。テープや廃材をもって行くことで自然物を使って制作をする子など、ちよつとしたひと工夫で遊びが広がり、友達と協力したり、助け合ったりしながら、たっぷり遊んでいる子ども達の姿を見ることができました。



探検の森の中で、音楽を流しながら絵本を読んだり、人形劇を演じたりすることで、お話の世界に引き込

まれ素敵な時間になっています。探検の森でスタートした『スマイルチャレンジデー』ですが、好きな遊びを選んで遊ぶことができるように、園庭やベランダ、廊下、遊戯室のコーナーをつくりました。



それぞれのコーナーの中から、自分の遊びたいコーナーを選んで、じっくり遊べる保育環境をつくり実践を繰り返しています。

昨年度、四歳児の女の子が、探検の森で拾ったどんぐりを「探検の森に蒔きたい」と言い三月に蒔きました。

今年度、芽が出てきました。「これ、蒔いたどんぐりだよ。大きくなったね」と話すと「水あげるね」と嬉しそうに、探検の森に行く観察しています。どんぐりが大きく育ってほしいと皆で楽しみにしています。

また、家から材料をもってきて制作する子や「折り紙、先生に教え

てあげるね」と自信満々な子、「明日、スマイルチャレンジデーだよったあ」折り紙のコーナーあるかなあ」と親子で話しながら降園していく姿など、保護者と一緒に共有できる活動になっていると思うと嬉しくなりました。

子ども達は、『スマイルチャレンジデー』が大好きで、目を輝かせてたくさんさんの経験や挑戦を繰り返して、子ども達にとっても保育士にとっても素敵な時間になっていると思います。

遊びが広がるには、どんな環境、どんなひと工夫をしたらよいか、話し合いながら取り組んでいます。

今では、毎週水曜日の『スマイルチャレンジデー』の日だけでなく、日々の遊びが広がり園庭や廊下、遊戯室を使って遊ぶようになってきたことは、実践を繰り返してきた成果と実感しています。

今年度、十月二十七日に、佐久地区保育士研修会が開催され、西保育園の『スマイルチャレンジデー』を見ていただくことができ、たくさんさんの意見や感想をいただきました。職員で共有し、これからの保育に生かしていきたいと思えます。

これからも、子ども達を中心に、西保育園らしい『のびのびとたっぷり遊び込める保育』を継続していきたいと思えます。

園の紹介

「保育士一人一人の資質向上を目指して」
「十の姿をもとに子どもたちの育ちについて語り合おう」

岡谷市 成田保育園 園長 高橋 桂子

我が成田保育園では、「今年一年どんな研究をしていくのか。」を考え合いました。「資質向上」という言葉はどの職業でも聞かれる言葉です。今回は保育だけではないところから入り、語り合い資質向上していこうとなったわけです。

そこで「十の姿」を皆で学び合ってから、語り合いにつなげていこうとなりました。どうやって学び合おうのか。各自が文献とにらめっこして頭の中に叩き込んでおけばいいのか。一緒に読み合わせというものをし

て共に学ばよいか。と、少し悩んだあげく考え付いたのが、「プレゼンをしよう」となりました。研究に参加をする主な保育士は五名。ということは、一人ふたつの姿を担当し、その内容を同僚にわかりやすく伝えていこうとなりました。さっそくし引きで担当の姿の項目を決めました。私自身も五名の仲間に入っているため、文献を読み始めました。

普段ならば

「ふうん」「そうなんだ」と何気なく読んでしまうこともある中、今回は相手に伝えるために・

「何を伝えよう」
「どんなふうに伝えよう」

「端的にわかりやすく伝えるには…」
「お互いが理解し合えるためには…」
と、考えながら読み込むことができました。

そして「プレゼン第一日目」

プレゼンがひとりずつ終わるたびに、「どんなところがわかりやすかったのか」など良かった点を伝え合いました。一人目が終わると、緊張していた二人目のプレゼンが始まります。五人いると五通りの「プレゼン」の伝え方があります。

「あの先生のあの表現の仕方わかりやすい」とか。

「あの先生の事例の使い方勉強になる」とか。

「あの先生、自分の言葉に置き換えて話している」などなど、勉強になることはばかりでした。そして一週間後

に「プレゼン第二日目」

それぞれ一回ずつ経験してからの二回目ということもあり、肩の力も少し抜けてきたようでした。

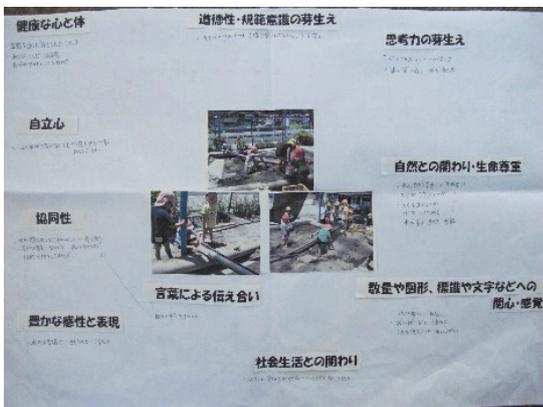
「相手にわかりやすく端的に伝える」ということは、保育の中でとても大事な位置にあると思います。

子どもたちに、伝えたいことを分かりやすい言葉、短い時間で伝える。保護者に対して、その光景がわかるように滑らかに話す。

さらに、保護者や目上の方には、丁寧な言葉で伝える。

話すこと、伝えることは奥が深い：と感じられ有意義な時間でした。

そしてその時間があつたからこそ、



語り合いの時間に充実感があつただと思います。

職員同士で子どもたちの写真を持ちよりの育ちを語り合いました。



自分が「プレゼン」した分野は頭に浸透し、同僚から聞いた分野は、印象的なことが頭に残っています。

「何が育つたのだろう」の語り合いは、先輩保育士から若い保育士まで躊躇なく自分の言葉、自分の感じたことを伝えあうことができました。

年齢問わず自分の思いが伝えられる環境はとても大切だと思います。

今回の研究をきっかけに、私自身が「伝える」ということに改めて、更なる関心を持つことができました。

園の紹介

小さな命から学ぶもの

筑北村 筑北ひまわり保育園 園長 岩田 妙子



当園は東筑摩郡の北部の山あい位置しています。周囲は田畑に囲まれ、季節の移り変わりを感ぜられる野山があり、今の季節は白くなり始めた北アルプスが望めます。この自然が当たり前にある幸せな環境の中で、特に子どもたちが興味・関心をもち関わっているのは、小さな生き物たちです。

特に印象的だったのは「カナヘビ」との出会いです。コロナ禍で散歩コースを変更したところ、新たな場所でもカナヘビの住み家を発見、生活を共にする中で、徐々に生態に興味を持つようになりました。冬眠することを知り、試行錯誤した結果、無事越冬することができました。そして、卒園から入学式へ。どちらの式にもカナヘビは仲間の一員として参加し、さらに1年生のクラスでも一緒に過ごしました。小さなカナヘビの存在が小学校へのつなぎ役となったのです。保育園で知ったカナヘビの生態や関わりなど、カナヘビとの生活を通して育まれた子どもたちの学びが、小学校でも受け継がれ生かしてもらい、本当にありがたく思います。

また、「毛虫」との出会いもありました。毛虫と聞くと、大抵の人は顔をしかめるでしょう。それもそのはず、毛虫は害虫と捉えられているからです。それまでは当園でも同じ扱いでした。しかし、ある出来事を境に、見方が180度変わったのです。この年、園庭の樹木に毛虫が大量発生しました。子どもたちがかぶれてしまわないよう、消毒作業をする事になりました。それを聞いていた年長児のA君、「ぼくの毛虫も殺されちゃうの？」A君は生き物が大好きで、毛虫もケースで飼育していたのです。担任の話では、毛虫にも無毒性のものがあるとのこと。そこで、子どもたちの興味・関心を大切にしたい思いから、毛虫について改めて詳細を調べてみることにしました。すると、日常でよく目にする「くまけむし」や「くすさん」は無毒性だということがわかりました。

子どもたちは毛虫図鑑で毛虫の種類を調べたり、また、地域の自然交流会に参加し、専門家のお話を聞いたりもしました。その中で、かぶれやすい子や苦手な子もいることから、まず、どうすれば子どもたち全員で気持ちよく飼育できるのか、何度も何度も話し合いました。「駄目な人は近づかなければいい」「離れて見られるように場所を考えよう」など、始めは自分の思いばかり言う子もいま



たが、次第に相手の気持ちも考えようとする意見も出てきました。また、



毛虫と関わることを、心配される保護者の方もいらつしやいました。そこで、子どもたちと相談し、毒のある毛虫との見分けがつくよう、だれもがわかるように写真を掲示したり、子どもたちが絵を描いたりしました。そうするうちに、保護者にも虫への関心が高く、扱いが得意な方がいて情報を教えてくれ、3歳未満児でも「これはマイマイガ。毒あるよ。さわっちゃだめ」と毛虫の種類を覚えて伝え合う、そんな姿も見られるようになり、いつの間にか園全体の取り組みに広がっていききました。子どもたちは、えさになる桜の葉を毎日取り換え、コースを作り毛虫を這わせて観察しながら、さなぎになり孵化するまで大事に育てました。途中で死んでしまった時は、何がいけなかったのか原因を考えながら、「生命」と向き合っていました。この「虫」との出会いには子どもたちにとって、命の大小は無く、良し悪しもない。特に自然界の事に関しては正解がなく、捉え方も様々であることを、改めて考えさせられました。大人が良し悪しの判断をつけてしまうことは簡単ですが、どうしてこんなに子どもたちが興味を惹かれるのだろうか、子どもたちの思いや考えに寄り添いながら、子どもたちと共に遊びや生活を創り続けていく大切さも学びました。

このような自然の中での経験が、子どもたちの中に息づき、基盤となつて何年後何十年後も人生を作り上げていく芽になつてくれたらと願っています。そのためにも、今後も豊かな筑北村の自然の中で子どもたちの体験を大切に積んでいきながら、共に考え学んでいく保育を目指していきたいと思えます。

園の紹介

「子どものやりたい」に向けた取り組み

りんどう保育園 主任保育士 霜鳥 喜代美



当園は公益財団法人鉄道弘済会長野保育所といます。鉄道弘済会は、国有鉄道の業務で殉職されたご家族や、公傷された方を救済・援助のために昭和7年創立され、その後一般福祉事業へと公益事業を拡大、公益財団法人に移行しました。主な事業は、知的障害児及び自閉症への支援施設「総合福祉センター弘済学園」や義肢の製作等を行う「義肢装具サポートセンター」、孤児等の支援施設「札幌南藻園」を運営している他、全国で保育所・認定こども園24カ所の施設を保有しています。長野保育所はそのうちの一つで、1958年(昭和33年)10月、当時の長野市より強い要望を受けて、市中心部の住宅街に開設、「りんどう保育園」という愛称は市長より命名されました。当園では子ども同士のコミュニケーションや地域の方々の交流を大切にしながら、保育を行っています。

新型コロナウイルス感染症流行前になりますが、地域のイベントの参加、高齢者施設や老人会との交流の中、共に触れ合うことで、高齢者へのいたわる気持ちや芽生えたことや、歌などを披露することで、お褒めの言葉をいただけたことが、子どもたちの活力につながり、世代間を超えた関わりを経験できました。



もつと多くの人たちが触れ合いたいという気持ちが高まり、小学校とも連携し学校訪問を行いました。1年生が校内の案内をしてくれたり、作った手作り玩具と一緒に楽しむことで、子ども同士の関わりが深まり、コミュニケーションの力を養うことができました。特にもつとやってみたくて、貸衣装屋さんへの職業見学でした。訪問から帰って来ると、自然と子ども達自ら、衣装を作りたいという声が上がりました。「やってみたくて」への意欲を受け止め、保育士が材料を用意し、ドレスやタキシード等を製作しました。次第にデザインや素材にこだわら姿が見られ、思いのほか素敵な作品となり、園児や保護者より好評を得ることが出来ました。他にも、夏に二歳児が取り組んだ食育活動からも、学びに繋がったことがありました。それは、野菜の水栽培です。水だけで、「野菜が出来るの？」との思いから挑戦しましたが、残念ながら野菜にはならず失敗に終わりました。しかし、秋に、給食室の大根と人参のヘタを水栽培するポスターを目にすると、夏に失敗したことを思い出し、再び挑戦したい気持ちが高まり、取り組むことになりました。毎日お当番を決め、水換えをしながら、人参のヘタが育つ様子を観察することで、ヘタが水だけで育つことを学びました。



この出来事を通して、二歳児の経験も、学ぶという意欲に繋がったのではないかと感じました。これらのエピソードを通して、日々の保育では、子どもがやりたいと思っただけにできる環境づくりに取り組んでいます。その為には、保育士同士がお互いを尊重し、共に育つ「質の高いチームづくり」が必要です。日々の語り合いを行い、「子どもにとつてどうか」という視点ももちながら、常に子どもの自発性の変化に気づき、背景にある様々な姿から興味を探っています。その他、充実した活動ができるように、保育中の具体的なエピソードの話し合いや、ドキュメンテーションからも、子どもの理解を図っています。ただ「やりたい」の内面を探るだけではなく、保育を通じて「資質・能力」を引き出し、子どもの夢が将来に広がっていく中で、園生活での様々な経験が、「もつと学びたい」に繋がっていくよう、日々の保育を大切にしながら取り組んでいきます。



おかず・おやつレシピ

牛 丼

○材料4人分 (子ども2人分・大人2人分)○

- ・米 …… 260g
- ・牛肉 …… 300g
- ・油 …… 適宜
- ・玉ねぎ …… 300g
- ・白滝 …… 130g
- ・酒 …… 大さじ1弱
- ・醤油 …… 大さじ2と1/2
- ・砂糖 …… 大さじ2弱
- ・みりん …… 大さじ1/2

・エネルギー…1816kcal ・たんぱく質…83.4g ・脂質…43.2g
 ・炭水化物…256.9g ・カルシウム…199mg ・鉄…12.3mg
 ・食塩相当量…6.8g



1. お米を炊く (水加減は米に対し1.5倍量の水で炊く)。
 2. 玉ねぎは大きな楕円に切る。白滝は湯通しをして、食べやすい大きさに切る。牛肉も食べやすい大きさに切る。
 3. 油を少量敷き、玉ねぎをよく炒め、白滝を加える。水少々調味料を加え、煮汁が沸いてきたら、牛肉を入れ、牛肉がだまにならないよう、軽くほぐす。
 4. 牛肉に火が通ってきたらアクを取る。20分程煮て、煮汁が軽く煮詰まったら、ご飯にのせて出来上がり。
- ※お好みで紅ショウガをのせてもOKです。

たてしな保育園 給食室

米粉のりんごケーキ

○材料4人分 (子ども2人分・大人2人分)○

- ・りんご …… 130g
- ・砂糖A …… 4g
- ・卵 …… 45g
- ・砂糖B …… 40g
- ・油 …… 10g
- ・ヨーグルト …… 35g
- ・微細米粉 …… 45g
- ・ベーキングパウダー…2g
- ・マフィンカップ …… 4個

・エネルギー…601kcal ・たんぱく質…9.8g ・脂質…16.4g
 ・炭水化物…104.1g ・カルシウム…121mg ・鉄…0.9mg
 ・食塩相当量…0.5g



1. りんごをいちょう切りにし、砂糖Aを加えて煮る。
2. 卵を溶いて砂糖Bを加えてよく混ぜる。さらに油とヨーグルトを加えて混ぜる。
3. 2に1の煮たりんごを加える。
4. 3に米粉とベーキングパウダーをふるい入れ、さっくりと生地がなじむまで混ぜる。
5. マフィンカップに4の生地を入れる。
6. 170℃に予熱したオーブンで15～20分ほど焼いたらできあがり。

たてしな保育園 給食室

編集後記

一年が明け、令和4年を振り返るとやはりコロナ感染症に振り回される一年でした。経済を回す意味でも緩和されてきていますが、それに伴い身近な感染者の増加を感じられてきています。保育現場では、感染症対策への戦いがあったのではないのでしょうか。戦いといえば令和4年の「今年の漢字」が「戦」でしたね。色々な戦いがあった年でした。直近では、サッカーワールドカップです。選手一人一人に共通の目標があることでチーム力が上がり、強い相手にも果敢に攻めの姿勢をみせてくれました。その姿は多くの人の心をつかみ、応援した人は多かったと思います。チーム力とは、団結することではないでしょうか。職員が目標に向かって気持ちを一つにして行動することでチーム力があがる。そのような園を作るのが永遠の目標です。

令和5年も子どもたちに寄り添いながら一緒に成長ができるよう過ごせるようにしていきます。

広報委員